

東京新聞

Chunichi Web Press

くりいむしちゅーの  
有田哲平(33)は、

名流

## 能楽 初の女性総合指定

### 『男の世界』に22の大輪 苦勞報われ、喜びの声

「能は男の世界」と根強く言われる能楽界で、22人の女性能楽師が初の重要無形文化財総合指定保持者に選ばれた。ようやく高レベルな芸の体現者と正式に認められたわけで、600年の能楽の歴史の中でもエポックメイキングな出来事。わが国が目指す男女共同参画社会にも合致した認定といえるが、女性の職分はまだ全体の1割程度。これをバネに、女性陣のさらなる活躍を期待したい。(劔和彦・富沢慶秀)

#### 苦勞報われ、喜びの声

文化審議会がことし七月に文部科学大臣に答申した能楽の重要無形文化財総合指定(認定)保持者は六十七人。このうち、二十二人の女性能楽師が今回初めて保持者に認定される。内訳はシテ方二十一人(観世流十一人、金春流四人、宝生流六人)と囃子方一人(笛方藤田流)。

プロの能楽協会員(千五百人余)の中から選ばれたわけで、これまで十一回の認定が行われている。現在四百二十五人の保持者がおり、今回新たに六十七人が追加される。

能楽は昭和三十二年に重要無形文化財に指定され、その保持者として社団法人日本能楽会会員(人間国宝を含む一定レベル以上の能楽師で構成)を総合的に認定している。

さらに高レベルの到達者には各個認定(人間国宝)の制度があり、現在十二人の同保持者がいる。

文化庁伝統文化課の担当者は「特に政策的に女性を選んだわけではない。たまたま女性の実力がこの時期に実を結んだだけ」と話す。果たしてそうだろうか。

先月十日、東京・国立能楽堂で日本能楽会主催の会員証授与式と新会員の披露記念会があった。

女性会員では、富山(とみやま)礼子(のりこ)の舞囃子「猩々」に笛・鹿取希世(本名・清子)らが出演したほか、山階敬子の仕舞「杜若」、足立礼子の独吟「半蔀(はじとみ)」などが披露された。

「なんとか元気うちに、きわどいところで間に合ったようです」

明るい笑顔を見せるシテ方観世流の足立礼子。新保持者の中で最古参の七十九歳。

女性では初めてとなる同門のシテ方師範の免状を受けた津村紀三子さん(昭和四十九年死去)が有名だが、この草分けに最初の手ほどきを受け、男性以上の芸歴がある。現在は観世喜之門下。

男女差別の厳しい時代を経験している。しかし、津村さんが始めた緑泉会が活動の拠点で、「その点では幸運でした」という。

「昔と違って、今は装束や能面も女性に合った、小ぶりのものがいっぱいあります」

五十代半ばの若い組では宝生流の影山三池子(本名・道子)と観世流の鶴沢(同・羽深)久が東京芸大の同期生。大学院を経て能楽協会の会員となり、三十年以上のキャリアがある。

影山は「お家元(宝生英照)に理解があつて」と話し、毎年二月には婦人能があるという。七月の文月能も女性がシテを勤めるが、ことしは「岩船」で広島栄里子がシテ、地謡もすべて女性で地頭(じがしら)を影山が担当。十日の国立能楽堂でも影山が仕舞「蟬丸」「融(とおる)」で地頭を勤めている。

### まだシテ方中心、三役も増えれば本物

喜寿(七十七歳)に今度の認定とおめでた二重奏となった金春流の富山礼子。女性能楽師苦難の時代を経験した一人。

「苦勞したとは思わない。舞わせていただけるだけで幸せでした」といいながらも、心強い仲間が大勢誕生したことで「これでやっと人並みに扱ってもらえる時代が来るんでしょうか」。

それでも「お家元(金春信高)が女性を大事にしてくれて、“女流は金春”の言葉もある」。金春会定期能年八回のうち二回が女性の会で、十二日に国立能楽堂で開かれる同能は、能三番のすべてが女性のシテ。

富山の「通盛」に続き、「半部」を舞う島原春京(本名・京子)も新保持者の一人。ほかに梅井みつ子の「乱」では初の地謡八人がすべて女性。地頭の高橋万紗(本名・まさ子)も新保持者。

シテ方以外の三役(囃子・ワキ・狂言方)で初の保持者となった笛方藤田流の鹿取希世はこの道四十年、大胆かつ豪快な音色が持ち味。「能は男性と対等の気迫がないと勤められません。大小鼓はかけ声を出すため、男性とのバランスが大変難しい。幸い、笛は声を出さないの、結構問題なく使ってもらえます。今後は次代の人材を育て、恩返しをしたい」と喜びを話した。

女性の保持者誕生について、能評論家・児玉信さんは「戦後、女性のプロが生まれて、ここまで来るのに五十年もかかった。頑張れば能楽会会員になれるということで、女性に希望を与えたことは確か。しかし、ほとんどがシテ方で、三役も同様に増えてくれば本物といえるのだが…。そういう意味では、まだ一步を踏み出したばかりともいえる」と話している。

### 初の女性総合指定保持者

【シテ方観世流】足立礼子(東京・世田谷区)山階敬子(同・大田区)近藤幸江(愛知・岡崎市)藤井千鶴子(京都市)寺岡佑子(横浜市)谷村育子(大分市)塩谷恵(大阪市)岩屋稚沙子(東京・文京区)佐伯紀久子(神戸市)今村宮子(福岡市)鶴沢久(東京・品川区)

【同金春流】富山礼子(神奈川・藤沢市)島原春京(埼玉・新座市)高橋万紗(川崎市)仙田理芳(東京・渋谷区)

【同宝生流】倉本雅(神戸市)内田芳子(東京・練馬区)後藤裕子(同・杉並区)竹内澄子(名古屋市)玉井博(岐阜市)影山三池子(横浜市)

【囃子・笛方藤田流】鹿取希世(愛知・西春町)

[● 伝統芸能・名流へ](#)

Copyright (C) 2004. The Tokyo Shimbun